令和６年度　国語科学習指導研究委員会

一　テーマ

児童・生徒一人ひとりが自己の高まりを実感できる国語教室

～必要感や問いを持って取り組む単元展開の検討～

二　テーマ設定の理由

本委員会ではこれまで、日常の授業改善や活性化を目指し、教育課程研究協議会会場校の授業や各委員の実践について、意見交換や情報交換をすることで、国語科授業の在り方について学び合ってきた。また、昨年度は国語科の指導における ICT 機器活用の実践共有等を行い、様々な活用の仕方があることを学んだ。そんな中で、小学校では教科書の内容変更も踏まえ、子どもたちが目の前の物語や課題について必要感や問いを持って取り組むにはどうしたらよいのかという課題が改めて委員の中から挙がってきた。そこで、今年度は国語科において ICT 機器の活用や探究的な学びなど、子どもたちの学習環境が変化する中で、どのような単元展開が構想できるかということに焦点を当てて、様々な言語活動について学び合い、子どもたち自身が高まりを感じられる国語科授業について追究した。

三　研究の経過

年度当初、情報交換する中で、本年度は特に「子どもたちが必要感を持てる授業づくり」「単元展開の構想」が話題となった。これらのことを、教育課程校の授業実践や子どもたちの具体の姿から学び合ってきた。

期日	内容　情報交換の内容	場所
５月２日 第１回委員会	・年間計画作成 ・日々の国語授業についての情報交換 ICT 機器活用について　学年ごと目指していきたい子どもの姿について　ICT 機器と書く活動の関連について　学習活動の明確化について　など	上小教育会館
６月５日 第２回委員会	・中学校教育課程会場校事前授業参観、研究会 ・日々の国語授業についての情報交換 ICT 機器活用について　対話的な活動について　など	依田窪南部中学校
６月１８日 第３回委員会	・小学校教育課程会場校事前授業参観、研究会 ・日々の国語授業についての情報交換 ICT 機器活用について　対話的な活動について　など	武石小学校
８月２８日 第４回委員会	・教育課程研究協議会計画作成 ・日々の国語授業についての情報交換 中学校における書く活動に焦点をあてた ICT 活用実践について ICT 機器を活用した振り返りの集積 など	各校 （オンライン）
９月９日 教育課程研究協議会	・国語研究委員実践発表 クロームブックを活用した実践　について 日々の実践の共有	武石小学校 依田窪南部中学校

１１月２５日 第４回委員会	・教育会総委員会 ・研究のまとめ、情報交換、来年度へ向けて	上小教育会館

四　研究内容

1　武石小学校の実践から

１．単元名　「本で知ったことをクイズにしよう」

２．単元展開（全５時間）

段階	時間	学習活動	○指導	評価基準〔評価方法〕 【観点】
第一次	1	・本を読んで知識を得たときのことを想起し、改めて本の読み方について考える。 ・本の中から知り得た知識をクイズにすることを知り、課題を設定する。	○今までの生活の中で、本の中から得た知識を想起させることで、課題への意識づけをする。 ○どんな本を、どのように読んでいるか、自己の本の読み方を改めて考えられるようにする。 ○目次から選んで読む方法、索引から探して読む方法があることを教える。 ○教師によるクイズをもとに、本から得た知識をクイズにしていくことを伝える。また、選ぶ本を図鑑や科学の読み物などに絞ることを伝える。	・図鑑や科学読み物などの本の種類があることを知り、その読み方を理解している。〔観察〕 【態】 ・自分の読書生活を振り返って単元のめあてを理解し、これからの学習に見通しをもっている。〔発言・ノート記述〕 【態】
	2	・「鳥になったきょうりゅうの話」を全員で読み、初めて知ったこと、興味をもったことを伝え合う。	○「鳥になったきょうりゅうの話」から初めて知ったこと、興味を持ったことに線を引かせる。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを全体で共有する。 ○教師が「鳥になったきょうりゅうの話」の中からクイズを師範することでクイズ大会への方向付けを図る。	・文章を読んで感じたことや考えたことを共有する中で、一人一人の感じ方に違いがあることに気づいている。 〔発言・ノート記述〕 【思・判・表】
第二次	3	・本を選んで読み、初めて知ったことなどクイズにしたいことをメモしておく。	○図書室から本を借りてきて、読みながら、クイズに使えそうな知識をメモさせておく。 ○メモや実際の本をもとにしながら、初めて知ったことや興味をもったことを付箋メモとして整理し、クイズにしたいことを選んでいくようにする。	

	4	・どんなことをクイズにしたらいいか吟味し、クイズ大会に向けクイズを作る。	○「問題」、「答え」、「解説」、「本の紹介」の順で作成させる。また、番号式や択一式、回答式など、回答者側の「選ばせ方」にも考えが及ぶよう促す。また、正解以外の他の選択肢も工夫できるように促す。 ○クイズの内容だけでなく、それぞれのクイズの出し方（番号式、択一式、回答式、選ばせ方など）にも着目させるようにする。	・進んで幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って本で知ったことをクイズにしようとしている。 〔観察・ノート記述〕 【態】
第三次	5本時	・クイズを出される側、出す側に分かれ、クイズ大会を開く。 ・初めて知ったことや、感想を伝え合う。	○友達のクイズを聞いて心に残った内容や本について学級全体で交流し、今後の読書生活にいかせるようにする。	・友達が発表した本に興味をもち、学習したことを今後の読書生活に生かそうとしている。〔観察・記述〕 【関】 ・幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立っていることに気づいている。〔観察・発言〕 【知・技】

３．本時案

（１）　主眼

読みたい本を見つけたいと思っている子どもたちが、本に関するクイズ大会をすることを通して、自分が知らなかった分野の本を読んでみたいという意欲をもつことができる。

（２）　本時の位置　５時間扱い中の第５時

前時：自分の選んだ本から、友だちに伝えたいことをクイズにする。

（３）　指導上の留意点

・子どもたちがクイズの活動を通して、感じたことや思ったことを伝えることができるように、クイズを聞くポイントを事前に明示してから、クイズ大会を行う。

（４）　展開

段階	学習活動	○発問　・予想される児童の反応	・指導　□評価	時間

導入	1　本時に取り組む活動内容を確認する。	・今日は、クイズ大会をするんだよね。 ・自分たちの考えたクイズをみんなに答えてほしいな。 ・友だちは、どんなクイズを出すんだろう。	・今までの学習を想起させ、本の種類や本の読み方、鳥になったきょうりゅうの話をもとにクイズ作りをしてきたことを想起させる。	3
		【めあて】クイズ大会をとおして、自分が読みたい本を見つけよう。		
	2　クイズ大会のめあてを確認する。	○どんな本だったら自分も読んでみたいって思うでしょうか。 ・自分が好きな本。 ・おもしろい本、びっくりする本。	・驚きや発見がある本は読み甲斐があることを押さえ、これからのクイズでそういった発見があると良いことを示す。	3
		【学習課題】「びっくりしたこと」「もっと知りたいこと」を考えながら、クイズ大会に参加しよう。		
展開	3　クイズ大会をする。	・クイズ、間ちがえちゃった。そんなことはじめて知ったよ。 ・自分の好きなところのクイズだった。もっとくわしく知りたいな。 ・本って色んなことを知れるな。 ・知らないことがたくさんあって、おもしろいな。楽しいな。	・クイズ大会に臨むにあたっての約束の確認をする。（最後まで聞くこと、ヒントを出してもよいこと、クイズの正誤だけにこだわらないようにすることなど） ・正誤のみに一喜一憂している児童には個別に声がけし、本時のめあてを再確認するようにする。	2 4
	4　クイズの感想を伝え合う	○クイズの中にびっくりしたことや、もっと知りたいことはありましたか。 ・まさか○○が○○だなんてびっくりしました。 ・○○なんてはじめて知った。 ・○○についてもっと知りたいと思いました。 ・○○さんのグループのクイズの出し方が面白くて引っかかりました。	・各グループで発表をしていき、発表に対しての感想をワークシートをもとに述べられるようにする。	

終末	5　振り返り	○今日のクイズ大会の中で、自分が読んでみたいと思った本はありますか。 ・クイズ大会をして、そんな本があることを初めて知った。○○さんの紹介した本を読んでみたい。 ・○○さんチームのクイズがおもしろかった。あのシリーズの本を読んでみたい。	・「めあて」を確かめ、読みたいと思った本をワークシートに記入する時間を設ける。 【評価】自分が知らなかった分野の本を読んでみたいという意欲をもつことができる。	15

４．児童の様子と実践から

子どもたち一人ひとりがお互いの発表をしっかり聞いてあげようという姿が見られた。単元全体を通して相手の話を「聞く」ということを実践者が大切にしているということが感じられる。またクイズ大会にして友だちに伝えるという問いの設定も子どもたちに適したもので、子どもたちの意欲を高めるものであった。単元全体を貫く問いということを子どもたちと教師の方で共有することが大切であることを改めて感じた授業であった。

2　依田窪南部中学校の実践から

全校研究テーマ

「問いを立て、課題をつかみ、その解決に向けて粘り強く取り組むことができる生徒の育成」

～向き合う　聴き合う　支え合う～

国語科研究テーマ

「問いや気づきから自ら課題を立て、友達と関わりながら思いや考えを深め、

それを表現できる生徒の育成」

単　元　名　　登場人物の言動の意味について考えよう　　２年「盆土産」

１　単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。　　（（１）エ）	①登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。（Ｃ（１）イ） ②文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（Ｃ（１）カ）	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

2　本単元における言語活動

（1）登場人物の言動の意味を考え、心情・人柄を読み取る。　→　思判表（C（1）イ）
（2）ＩＣＴ・対面での意見交換を通して、読み取りを深める。→　思判表（C（1）カ）

3　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 （(1）エ）	①登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈して表現している。（C（1）イ） ②文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、感じ方の違いから読み取りを深めている。 （C（1）カ）	①粘り強く登場人物の言動について考え、周囲との話し合いや情報共有（ICT 機器の利用）によって、登場人物の心情や人柄を伝え合おうとしている。

4　指導と評価の計画（全６時間中３時間目）

【　単元の流れ　】

時	学習活動	指導・援助	評価規準・方法
1	○通読して全体を把握する。 ○初発の感想を書く。 ○「盆土産」を読み味わうための手立てを知る。 **単元を通した課題　「登場人物の言動から心情をとらえよう」**	・P104「学習の窓」を読み、登場人物の言動から心情を考えることが作品を読み味わう手立てとなることを確認する。	
2・3（本時）	○友達の初発の感想を知る。 ○「えびフライ」が書かれた場面の問いを立て、考えを追究し、スプレッドシートで共有する。 ○作品の中で「えびフライ（えんびフライ）」が象徴するものを考える。 ○グループで考えた意見を発表・共有する。	・初発の感想から、「えびフライ」がこの作品のキーワードになっていることをおさえる。 ・自分の感じた疑問を問いとして立て、言動や心情を根拠にして考える。 ・4 人グループで話し合わせる。 ・班の意見はホワイトボードにまとめさせる。	［主体的に取り組む態度］① 観察 ・ここでは、自ら問いを立て、追究する姿を確認する。 ［思考・判断・表現］① 学習カード ・ここでは、「えびフライ」が象徴するものを、言動や心情を根拠にして考えているかを確認する。

4	○登場人物の言葉や行動から、それぞれの人物の家族に対する心情を考える。 ○墓参りの場面での父親の心情を「なりきり作文」で書く。	・スプレッドシートに各自の問いと考えを記入させ、共有できるようにする。	［思考・判断・表現］① 作文 ・ここでは、父親の言動から読み取れる心情を、父親の目線で表現できているかを確認する。
5	○これまでの学習を受けて、各自のテーマを立て、追究レポートを完成させる。	・テーマの例を示す。	［知識・技能］① 追究レポート ・ここでは、読み深めたことを文章の中で豊かな語彙で表現しているか確かめる。
6	・レポートの相互評価を行い、他者の見方・考え方にふれ、自身の考えを深める。 ・学習によって深めた考えを振り返りに記入する。	・他者の考え・表現方法の良いところに注目させる。 ・他者のレポートの内容を参考に、自身の考えを深める。	［思考・判断・表現］② 学習カード ・ここでは、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているか確認する。

5　本時案

（1）主眼

「えびフライ（えんびフライ）」という言葉に着目し、問いを立てて追究した生徒が、「えびフライ（えんびフライ）」という語が作品全体の中で象徴するものを考える場面で、友達と情報を共有し、意見交換をしながら考えを追究することで、「えびフライ（えんびフライ）」が家族にとって特別なものだということに気づくことができる。

（2）本時の位置（全５時間中第３時）

前時：「えびフライ」が書かれた場面の問いを立て、考えを追究し、スプレッドシートで共有する。

次時：「家族」への疑問から問いを立てて追究し、なりきり作文で父親の家族への思いを表現する。

（3）指導上の留意点

・作品の中で「えびフライ（えんびフライ）」が象徴するものを考える場面では、「えびフライ」が書かれた場面に注目して作品全体への追究につなげるようにうながす。

・グループ・全体で追究する場面では、友達の考えを知ったり、感想を伝えあったりして、多角的な視点から作品の内容を読み解くことができるように支援する。

（4）展開

	学習内容・「発問」	予想される生徒の反応	指導　※評価規準	分
導入	1　前時の振り返りをして、友達の意見にコメントを入れる。 「友達の意見を読んで感じたこと、自分も同じ思いなどのコメントを入力しましょう。」	・「えびフライ」にからんだ問いを立て、言動を読み取りながら考えた。 ・友達はどんな問いを立てたのかな。 ・自分と同じ問いを立てた人の考えを知りたい。	・前時のスプレッドシートを開かせる。 ・友達の考え（問いと答え）について、感想・意見をコメントで入力させる。（本時の学習の参考にさせる。）	10
展開	**学習課題　作品全体の中で「えびフライ（えんびフライ）」が象徴するものは何か。**			10
	2　作品全体の中で「えびフライ（えんびフライ）」が象徴するものを考える。 ①個人追究 プリントに象徴するものと、そう考えた根拠を書く。 「作品全体の中で、えびフライが象徴するものは何か、プリントに書こう。」	・好きな食べ物だよね。はじめて食べておいしかったから。おいしいだけじゃないよね。 ・思い出に残るお土産かな？とても楽しみにしてたから。 ・お父さんの愛情かな。眠りを寸断してまで持ってきてくれたから。	・個人→グループ（相談）→全体（発表）という流れの見通しをもたせる。 ・「えびフライ」が書かれた場面の人物の言動に注目して考えることをうながす。 ・前回のスプレッドシートが参考になると伝える。	

展開	②グループ追究 「グループで意見を出し合い、考えを深めましょう。」 「根拠を話しながら、いろんな意味を探してみよう。」 ③全体追究 グループでまとめた意見を根拠とともにホワイトボードに記入して、発表する。 ④個人再追究 意見交換の内容をふまえ、改めて意味と根拠をプリントに記入する。 「ここまでの内容を受けて、改めて、象徴するものと根拠をプリントに書きましょう。」	・私は○○だと思います。理由は・・・だからです。 ・出稼ぎで遠く離れて暮らすから、特別なお盆に会える、お土産（えびフライ）も特別なものになるのかな。 ・「えびフライ」を食べながら久しぶりに家族がすごしているから「家族のだんらん」を象徴しているんじゃないかな。 ・その根拠なら・・・という見方もできるよね。 ・私たちのグループでは、△△という意見が出ました。根拠は□□で、××という見方もあるという意見が出ました。 ・同じ作品を読んでも、いろんな見方や考え方・感じ方があるんだね。 ・いろいろ考えたら、作品の中で「えびフライ」が象徴するものは△△だと思う。理由は・・・だからです。	・４人グループで話し合わせる。 ・結論を急がず、根拠となる読み取りや考えた理由を述べ合う。 ・話し合いがなかなか進まないグループには、始めと終わりで「えびフライ」の表す意味がどう変化しているか考えさせる。 ・グループごとにホワイトボードに意見をまとめ・全体発表では黒板に貼り付けて使用する。 ・代表者が前に出て、発表を行う。 評価　作品全体の中で「えびフライ」が象徴するものは何か、友達の意見を参考にしながら、自分の考えを、根拠をもとに記入している。（学習カード）	25
まとめ	３　学習内容の確認・振り返り、次時の学習内容の確認	・なにげない言動にも、こめられた意味があるんだな。 ・次の時間はどんな学習をするのかな。	・机間巡視をして振り返りの記入を確認・うながす。	5

６．児童の様子と実践から

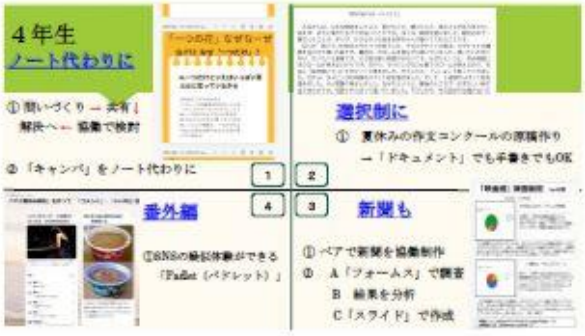
個人追究→グループ追究→全体追究→個人再追究という流れの中で、子どもたちが問いを自分と他者の視点両面から考えることにつながったといえる。また、「単元を通した問い」を今回明確に打ち出しているが、問いを持って学習に取り組むことを単元全体で行ったことで、本時の追究もより深まっていったのだと考察する。

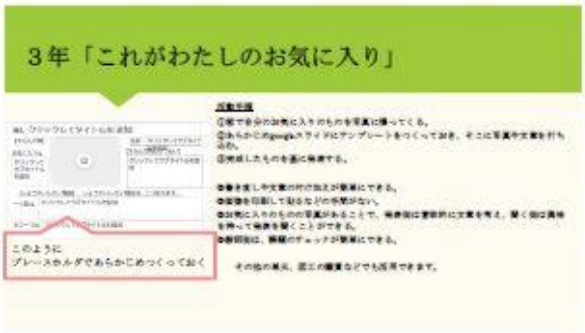
問い立ての重要性や問いをしっかりと持つことによって追究が深まることを再認識させられた授業であった。

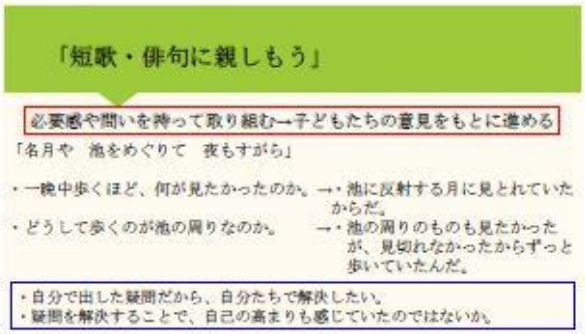
３　委員の実践から

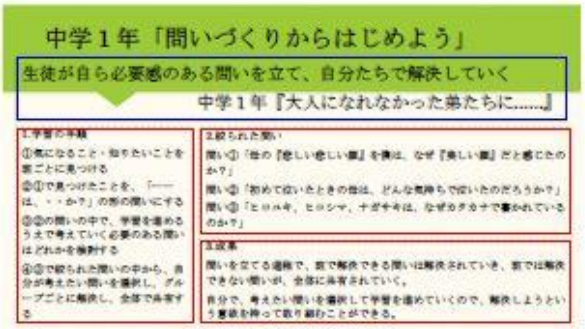
委員の実践についてまとめたものを以下の図として示す。ICT 機器の活用や単元展開の工夫など普段の実践にも活用できるものとなった。

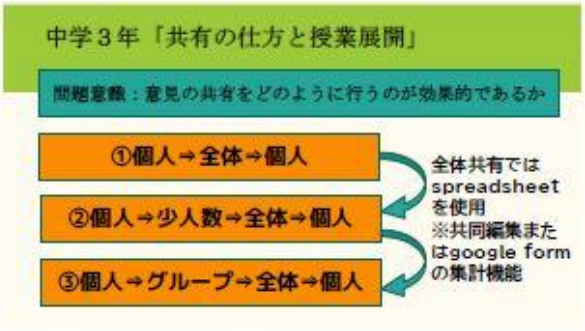
図１　委員の実践資料　国語委員会制作

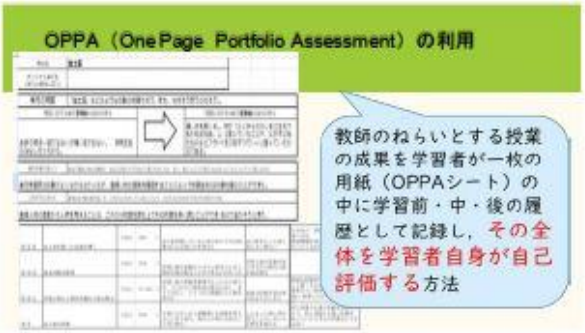


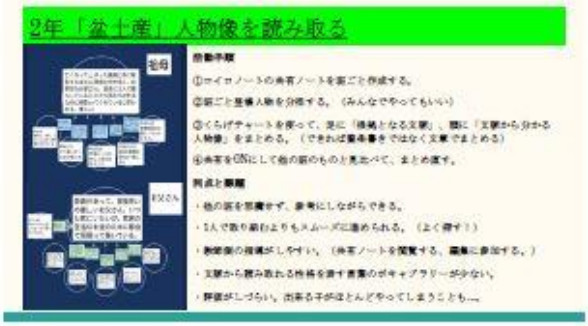












五　研究のまとめと課題

教育課程会場校の授業を参観したり、各委員の実践を発表したりする中で、国語授業改善に向けて学び合うことができた。その中で、本年度特に話題となった点について、以下にまとめる。

（１）「授業実践の様子から」

目的意識を持った問い立て（武石小学校）や、子どもたち自身が問いを持ち、個人追究を深めていく学習活動（南部中学校）など、子どもたちの中に問いが根付くことが学びの意欲を引き出すことを再認

識した。特に両校とも「単元を通した課題」を子どもたちと共有し、取り組んだことが意欲あふれる授業につながったと考えられ、１時間の授業として考えるのではなく、単元という大きなまとまりの中で授業の問いや学習課題を構想していくことは極めて重要であることがわかった。また、友だちに対してクイズを出題する（武石小学校）や、互いの考えをスプレッドシートで共有し、見合う（南部中学校）といった他者と関わりを持つような学習活動も、子どもに必要感を生む契機となり、相手意識を持った学習活動を構想していくことも大切であるということを改めて感じた。

（２）「委員の実践発表から」

教育課程研究協議会の午後の研修では、国語委員による実践発表を行った。実践発表では、「話す・聞く」「書く」「読む」など国語科の様々な領域に合わせて工夫した取り組みの具体的な提案がなされた。ICT 機器活用が進む中で、アプリケーションの利用にも教師間でかなり幅ができてきているように思う。今回「今まで知らなかったアプリケーションの使い方を教えてもらい、参考になった。」、「今年度から低学年を担当したため、どんなことができるのかわからなかったが、実践発表を聞いて、活用の仕方も色々あることに気づかされた。」などそれぞれの見地を広げ、授業づくりの意欲を高める時間になったと思う。

また、教科書が小中それぞれ改訂となる（小学校は既に改訂済み）ことが話題にあがった。新しい教材なども導入されているので、必要感や問いといった研究テーマの観点から、どのようなことを問いとして子どもたちと学習をしていくのかというところも、一つこの委員会として取り組めるとよいと感じた。今後さらにお互いの学びの場となる委員会にしていきたい。